

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 14 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520577

研究課題名（和文）第二言語教育に特化した教師ナラティブ研究の理論的・実証的展開

研究課題名（英文）Theoretical and Empirical Explorations of Second Language Teachers' Narratives

研究代表者

柳瀬 陽介（YANASE YOSUKE）

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：70239820

研究成果の概要（和文）：

学術論文に関しては、(1)ナラティブとエビデンスを対比させた理論的論文、(2)教師ナラティブを意識とメディアの関係から考察した理論的論文（2本）、(3)言語教師志望者による自己観察・記述の実証的論文を査読付学術誌に公刊した。研究成果のより広い層への公開については、2回のシンポジウムを開催し、中高の英語教師を主にする300名以上の聴衆（2回合計）に対して教師ナラティブの重要性を説明した。さらに関連書として教師ナラティブに関する一般書を一冊公刊した。

研究成果の概要（英文）：

We published four papers in refereed academic journals: 1) narrative and evidence; 2) use of different media and consciousness in narrative (2 papers); 3) self-observation and self-description by prospective teachers. We also held two public seminars for wider audience and assembled more than 300 people, mostly English teachers in junior and senior high schools. We also published a book on teachers' narrative for general public.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語教師養成、ナラティブ、コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

欧米の第二言語教育では広くは社会文化的アプローチに基づき、方法論的には質的研究のメソッドを取る教師のナラティブ研究は発展しているが、日本の第二言語教育界で

は、そもそも社会文化的アプローチ・質的研究のレベルからして、かなり遅れている。ナラティブ研究の普及に関しての遅れは非常に大きなものとなっている。

したがって日本では教師のナラティブ研

究を促進する必要があるが、その際は (1) 理論的考察、(2) 実証的記述、(3) 第二言語教育特有の特徴分析が連動して行なわなければ、これまでの研究と同工異曲のものを再生産するだけであり、第二言語教育の改善のための現実的な力とはなり得ないと考え、本研究を企画した。

2. 研究の目的

本研究は、第二言語教師が自己成長するためのナラティブ (語り) を、理論的にも実証的にも展開して、言語教師のナラティブは、(a) どのような特徴や構造をもち、(b) どのような場で最もよく生成され、(c) どのような言語学的洞察を含んでいるのかを明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

理論的な研究としては、広くは社会文化的アプローチに基づきながらも、ナラティブの特徴・構造を明らかにするために、コミュニケーション論 (特にルーマン社会学、メディア生態学、神経科学の意識論) に依拠しながら論考を進めた。実証的方法については、現職教師のとのインタビューおよび教師志望の大学院生による自己観察・自己記述を進めた。

4. 研究成果

(a) のナラティブの特徴・構造については、理論的考察から、実践者自らの中でことばが立ち現れる時、他者 (同僚) などに語る時、自らことばを書き連ねて省察を重ねる時などにより、ナラティブの特徴・構造が異なることがわかった。

(b) のナラティブ生成については一般的な答えは出ないものの、(a)でも明らかになったナラティブの特徴・構造から、ジャーナルに

実践者がことばを紡ぎだし、またそのことばにより省察を重ねることが、現実的かつ効果的な教師成長のための手段であると判断するにいたった。

(c) のナラティブの言語学的特徴については、何度も省察を重ねた上で、かつ信頼できる他者に読んでもらおうと書く中で、実践者が自らの前提 (言語学的には省略表現など) に対して自覚的になること、しかし書く中で自ら修辞表現が現われてきがちであることがわかった。

これらの知見により、平成 24-26 年度の科研「英語教師実践ナラティブにおける書記言語・音声言語、および日本語・英語の選択」を構想し採択され、現在開始している。

具体的な成果については、本報告書冒頭に述べたように、学術論文に関しては、(1) ナラティブとエビデンスを対比させた理論的論文、(2) 教師ナラティブを意識とメディアの関係から考察した理論的論文 (2 本)、(3) 言語教師志望者による自己観察・記述の実証的論文を査読付学術誌に公刊した。研究成果のより広い層への公開については、2 回のシンポジウムを開催し、中高の英語教師を主にする 300 名以上の聴衆 (2 回合計) に対して教師ナラティブの重要性を説明した。さらに関連書として教師ナラティブに関する一般書を一冊公刊した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

(1) 柳瀬陽介 (2012) 言語教師志望者による自己観察・記述の二次的観察・記述 『中国地区英語教育学会研究紀要』 No. 42,

pp.51-60. 査読有り

(2) 柳瀬陽介 (2011) 意識の神経科学と言語のメディア論に基づく教師ナラティブに関する原理的考察『中国地区英語教育学会研究紀要』No. 41, pp.77-86. 査読有り

(3) 柳瀬陽介 (2011) メディア論と社会分化論から考える言語コミュニケーションの多元性と複数性『中国地区英語教育学会研究紀要』No. 41, pp.31-40. 査読有り

(4) 柳瀬陽介 (2010) 英語教育実践支援のためのエビデンスとナラティブ—EBM と NBM からの考察『中国地区英語教育学会研究紀要』No. 40, pp.11-20. 査読有り

[学会発表] (計4件)

(1) 柳瀬陽介 (2011) 言語教師志望者による自己観察・記述の二次的観察・記述 2011年8月21日 全国英語教育学会 (山形大学)

(2) 柳瀬陽介 (2010) メディア論と社会分化論から考える言語コミュニケーションの多元性と複数性 2010年6月26日 中国地区英語教育学会 (広島大学)

(3) 柳瀬陽介 (2010) 意識の神経科学と言語のメディア論に基づく教師ナラティブに関する原理的考察 2010年8月7日 全国英語教育学会 (関西大学)

(4) 柳瀬陽介 (2009) 英語教育実践支援のためのエビデンスとナラティブ—EBM と NBM からの考察 2009年8月8日 全国英語教育学会 (鳥取大学)

[図書] (計1件)

(1) 柳瀬陽介・組田幸一郎・奥住桂 (2011) 『成長する英語教師をめざして — 新人教師・学生時代に読んでおきたい教師の語り』ひつじ書房 (柳瀬は、第1編著者として全体を統括し、かつ第1部 (pp. 7-16) と第6章 (pp. 188-192) を

執筆)

[その他]

ホームページ等

<http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2009/08/20091011-12.html>

http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2009/08/blog-post_05.html

<http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2010/12/html.html>

<http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2010/11/html.html>

<http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2012/01/html.html>

<http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2012/03/34.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

柳瀬 陽介 (YANASE YOSUKE)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：70239820

(2)研究分担者

吉田 達弘 (YOSHIDA TATSUHIRO)

兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：10240293

今井 裕之 (IMAI HIROYUKI)

兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：80247759

中嶋 洋一 (NAKASHIMA YOICHI)

関西外国語大学・国際言語学部・教授
研究者番号：70460839

横溝 紳一郎 (YOKOMIZO SHINICHIRO)

佐賀大学・留学生センター・教授
研究者番号：60220563

大津 由紀雄 (OTSU YUKIO)
慶応義塾大学・言語文化研究所・教授
研究者番号：80100410

(3) 連携研究者

なし